

汚染水対策の進捗状況及びリスクマップ

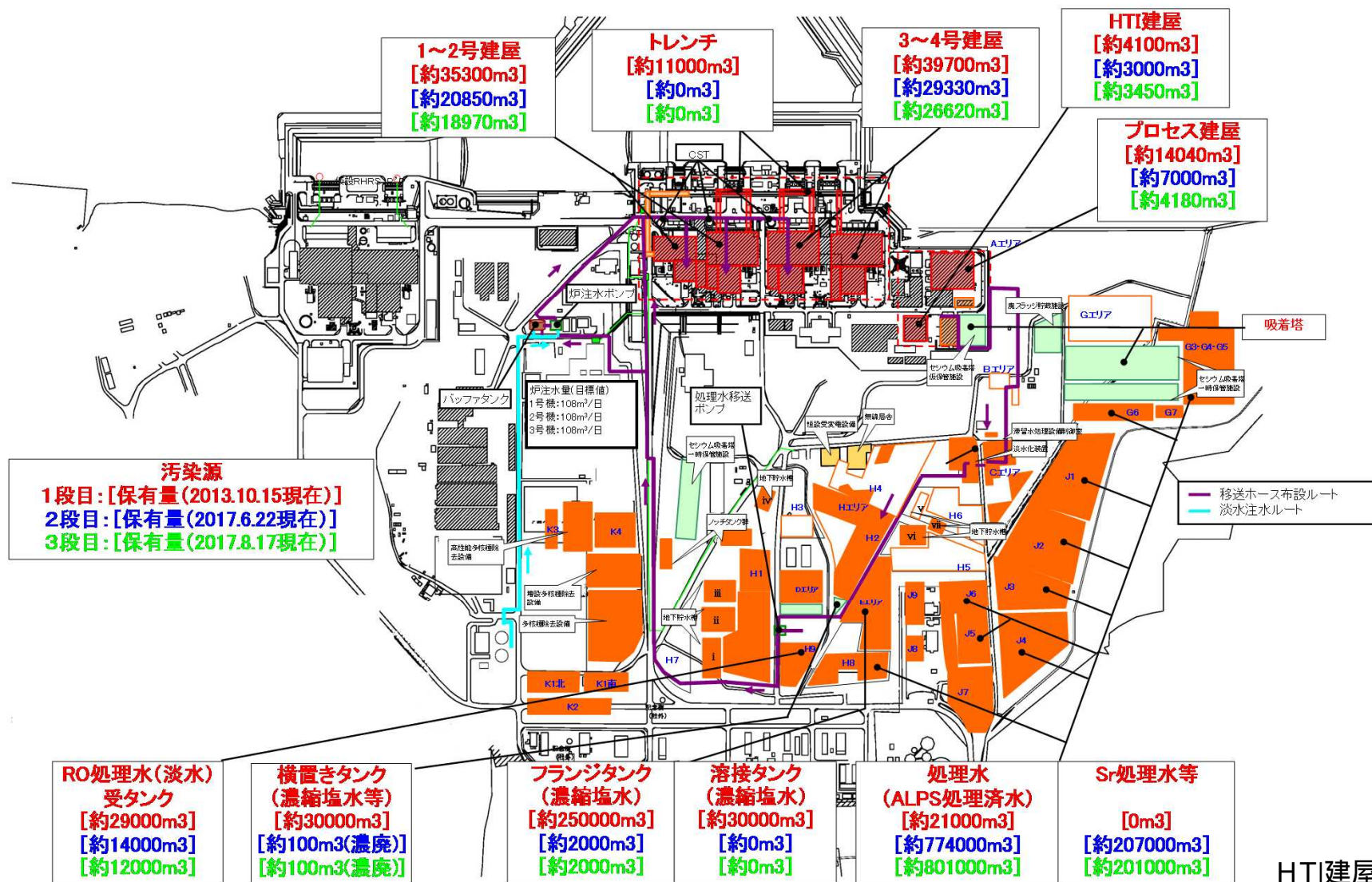
2017/08/25

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

(1) 汚染水の貯蔵状況

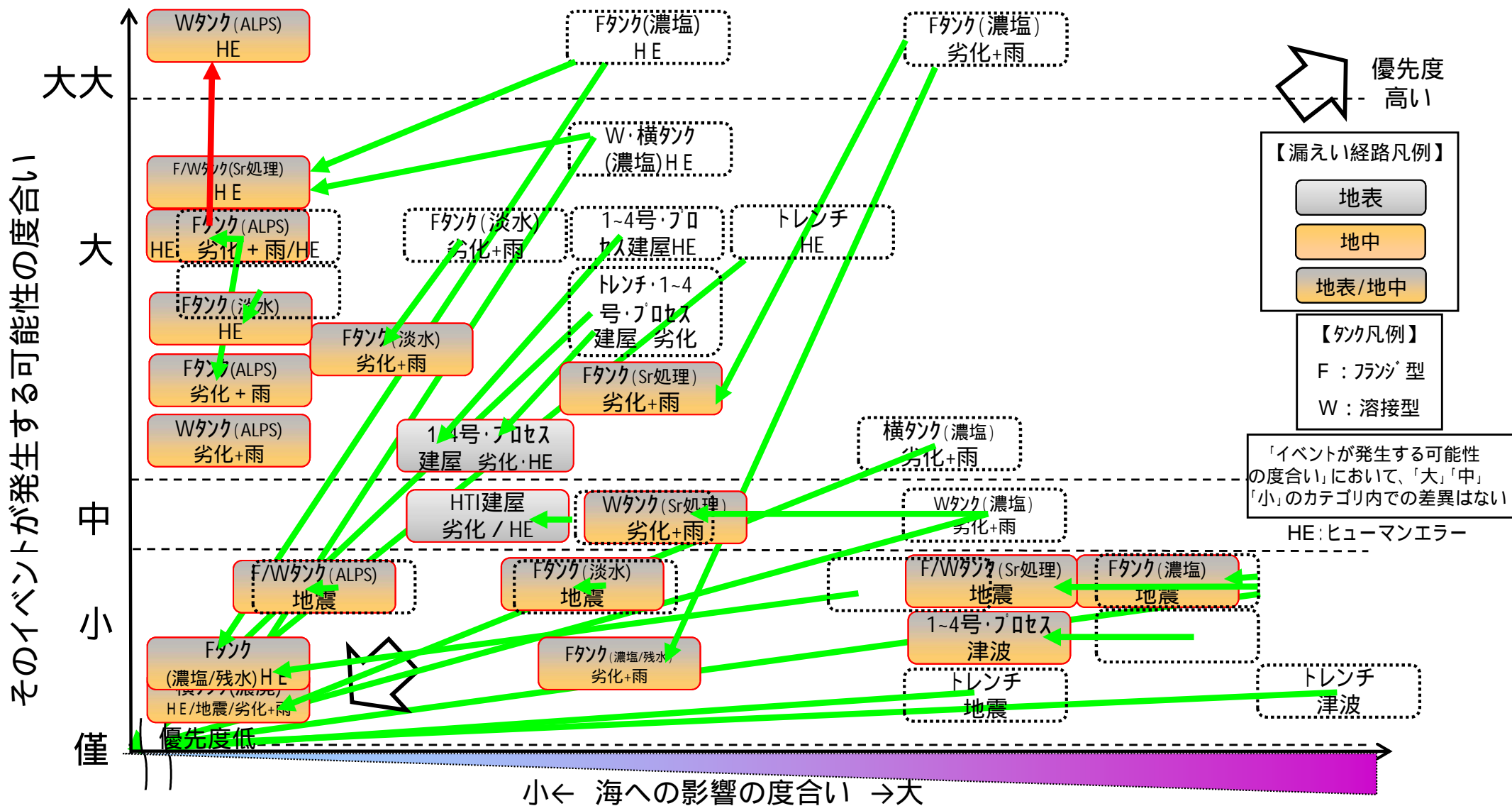
建屋貯蔵量：サブドレン水位低下に合わせた建屋水位低下に伴い、**水量が徐々に減少**。
 タンク貯蔵量：建屋内滞留水・Sr処理水の処理により**処理水(ALPS処理済水)が増加**。



HTI建屋：高温焼却炉建屋

注：濃縮廃液は廃棄物として処理していく

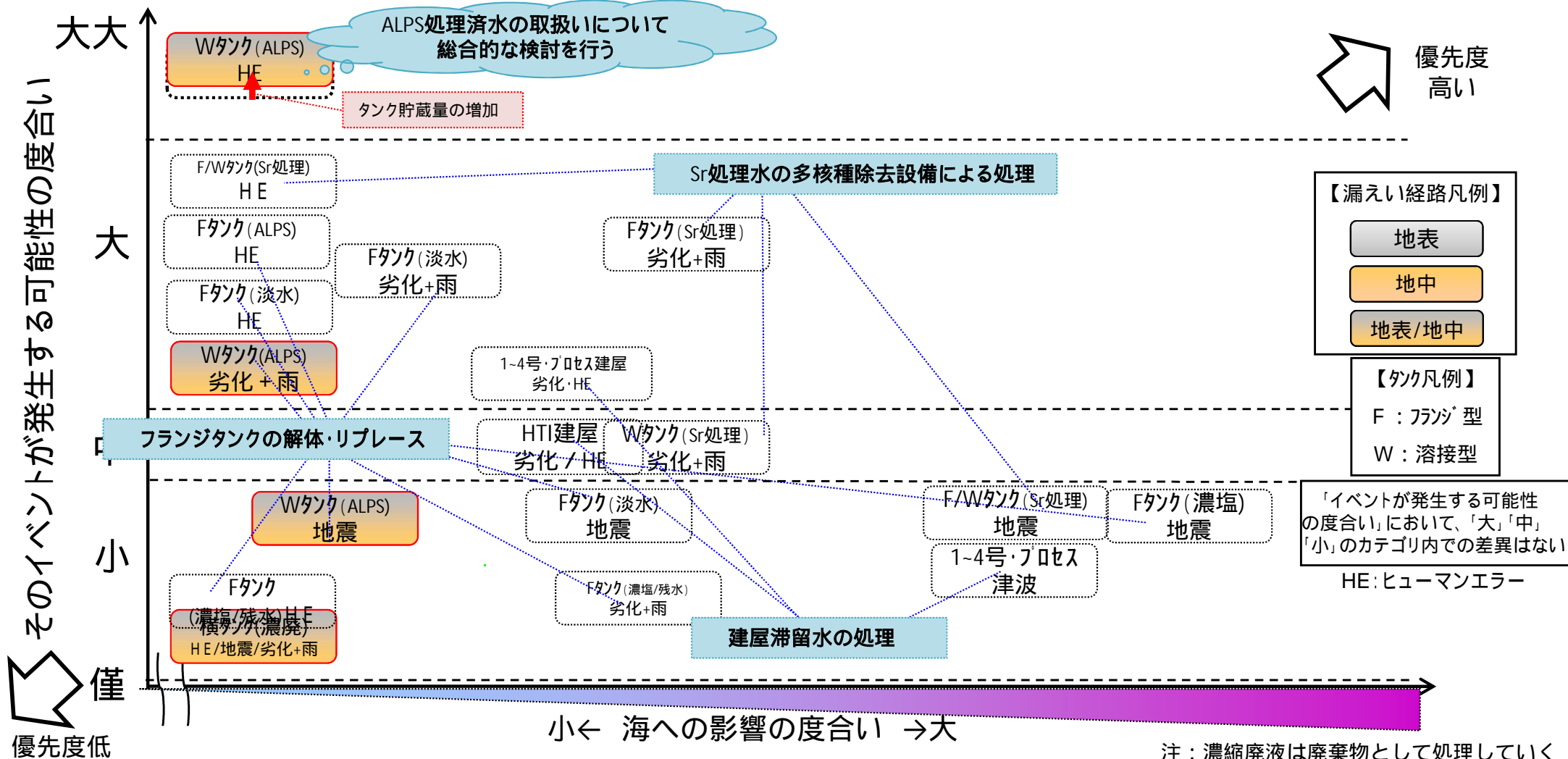
汚染水イベント発生リスクマップ【2013.12 2017.7の変遷】



(発生する可能性の度合い) 大大: 数回以上/年、大: 数回/年、中: 数回/数十年、小: 数回/数百年

(3) 汚染水リスクマップ / 今後の対策

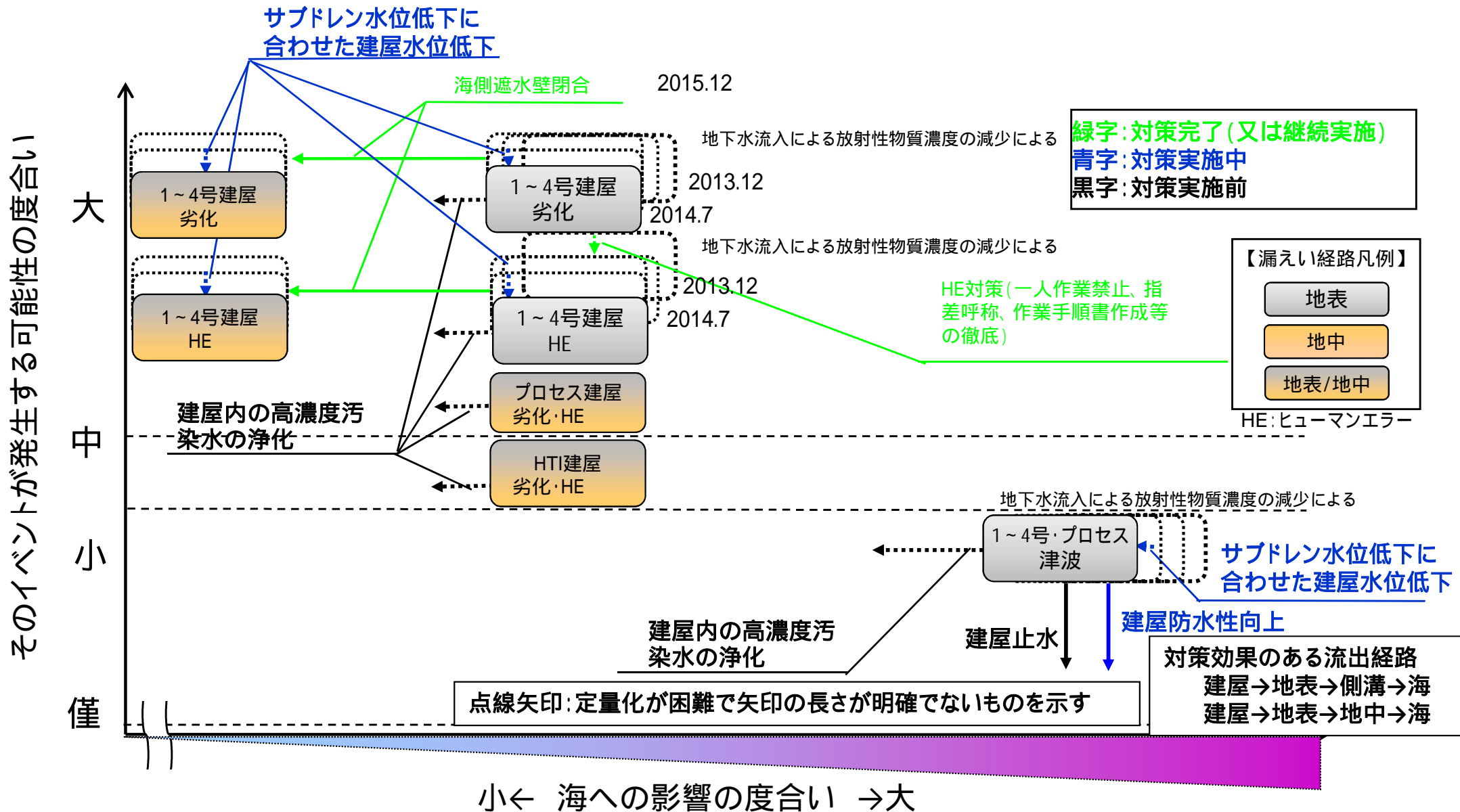
引き続き、下記の汚染水対策を進め、汚染水リスクを低減していく
 フランジタンクの解体・リブレース
 Sr処理水の多核種除去設備による処理
 建屋滞留水の処理



これまでの各対策の進捗状況に鑑み、リスクの低減状況を評価した。
以下の貯蔵箇所について、漏えいが発生するイベント（経年劣化、ヒューマンエラー、地震、津波等）毎に実施された対策の効果をリスクマップを用いて評価した。

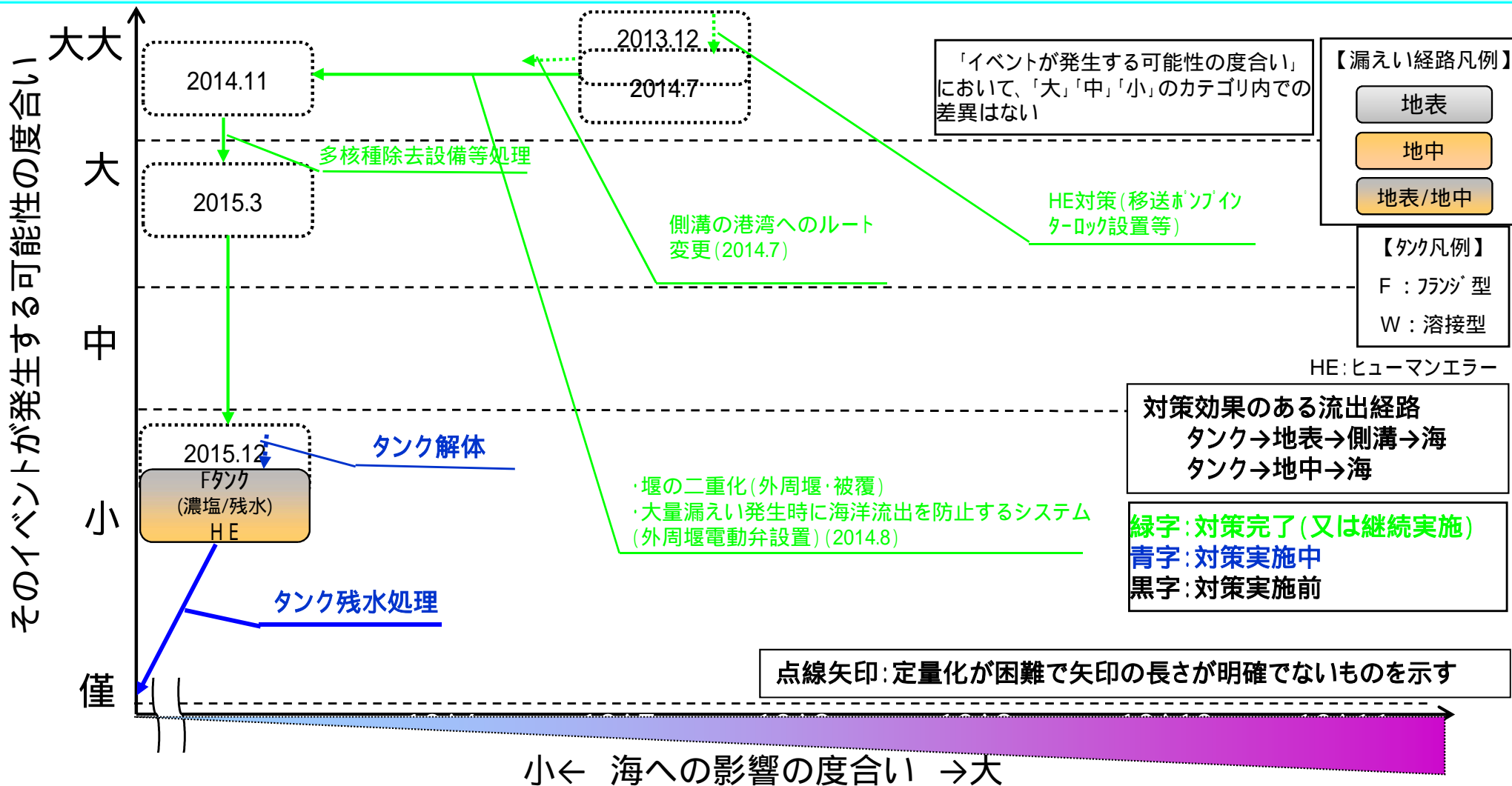
No.	貯蔵箇所
	建屋
	フランジタンク（濃縮塩水）
	溶接タンク（濃縮塩水）
	横置きタンク（濃縮廃液）
	フランジタンク（ALPS処理水）
	溶接タンク（ALPS処理水）
	フランジ / 溶接タンク（Sr処理水）

1～4号機建屋については、サブドレン水位低下に合わせた建屋水位低下に伴い、水量が徐々に減少。

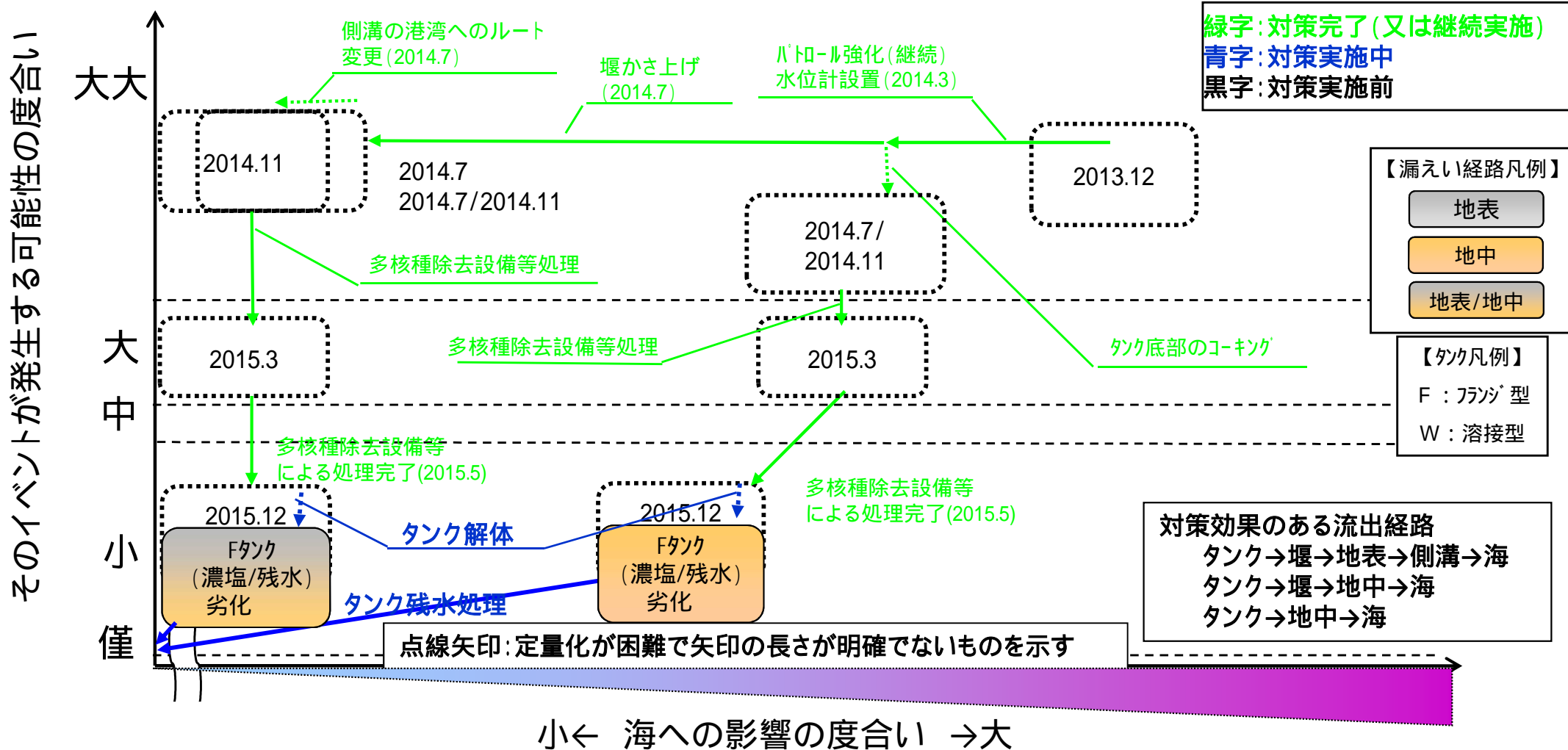


多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了。残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。

フランジタンク解体の進捗により、フランジタンク基数が減少。

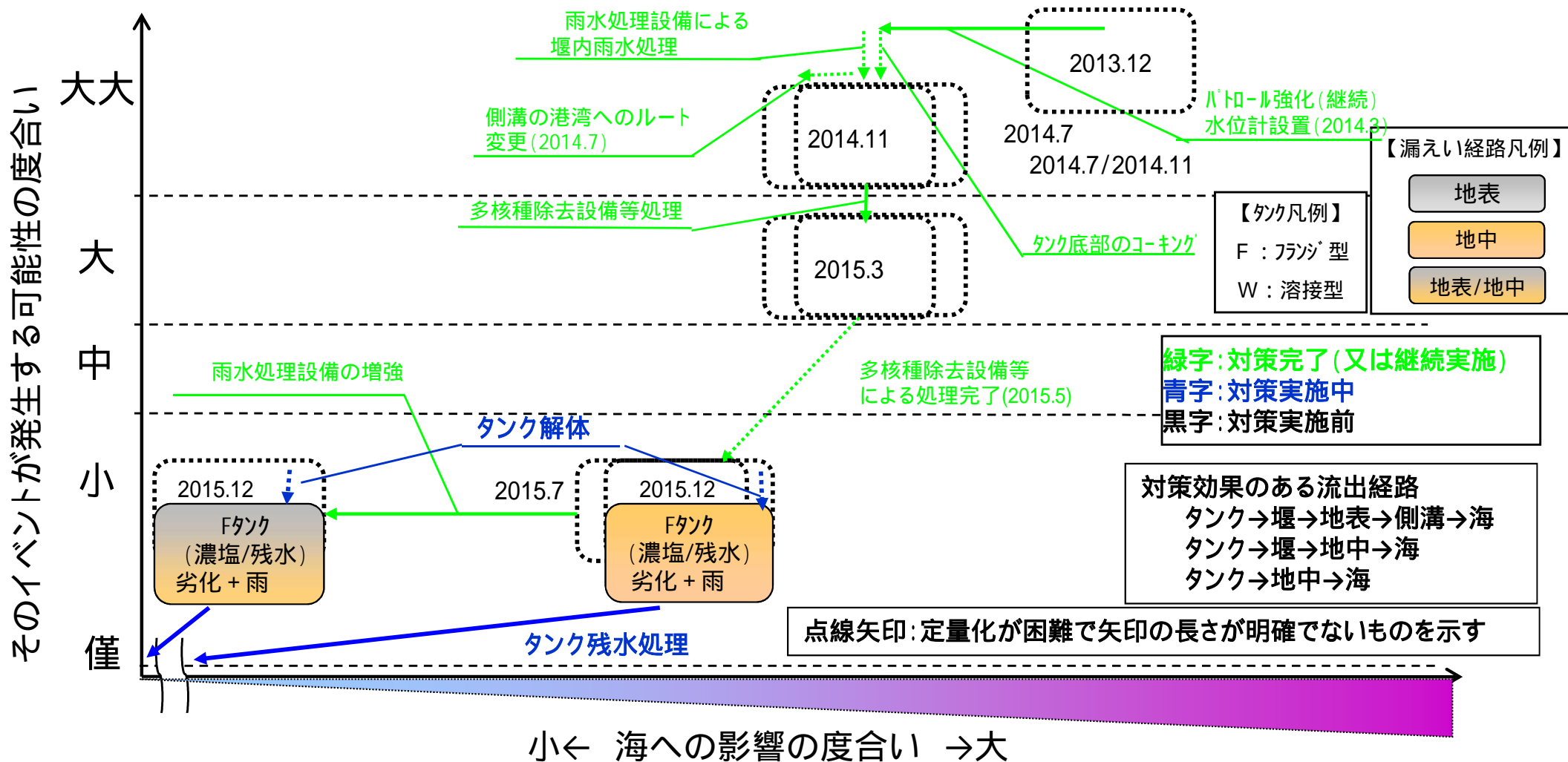


多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了。残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。
フランジタンク解体の進捗により、フランジタンク基数が減少。

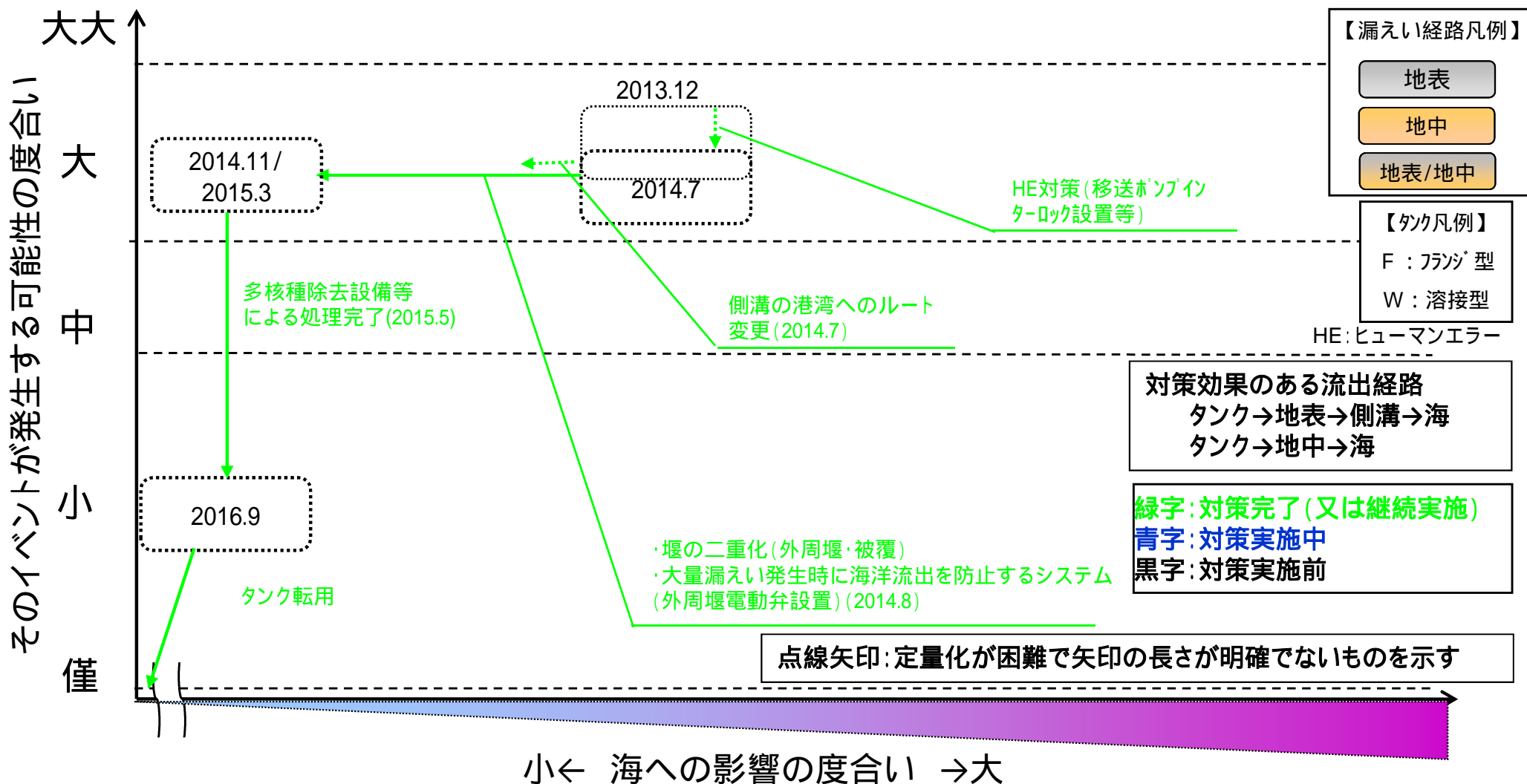


多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了。残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。

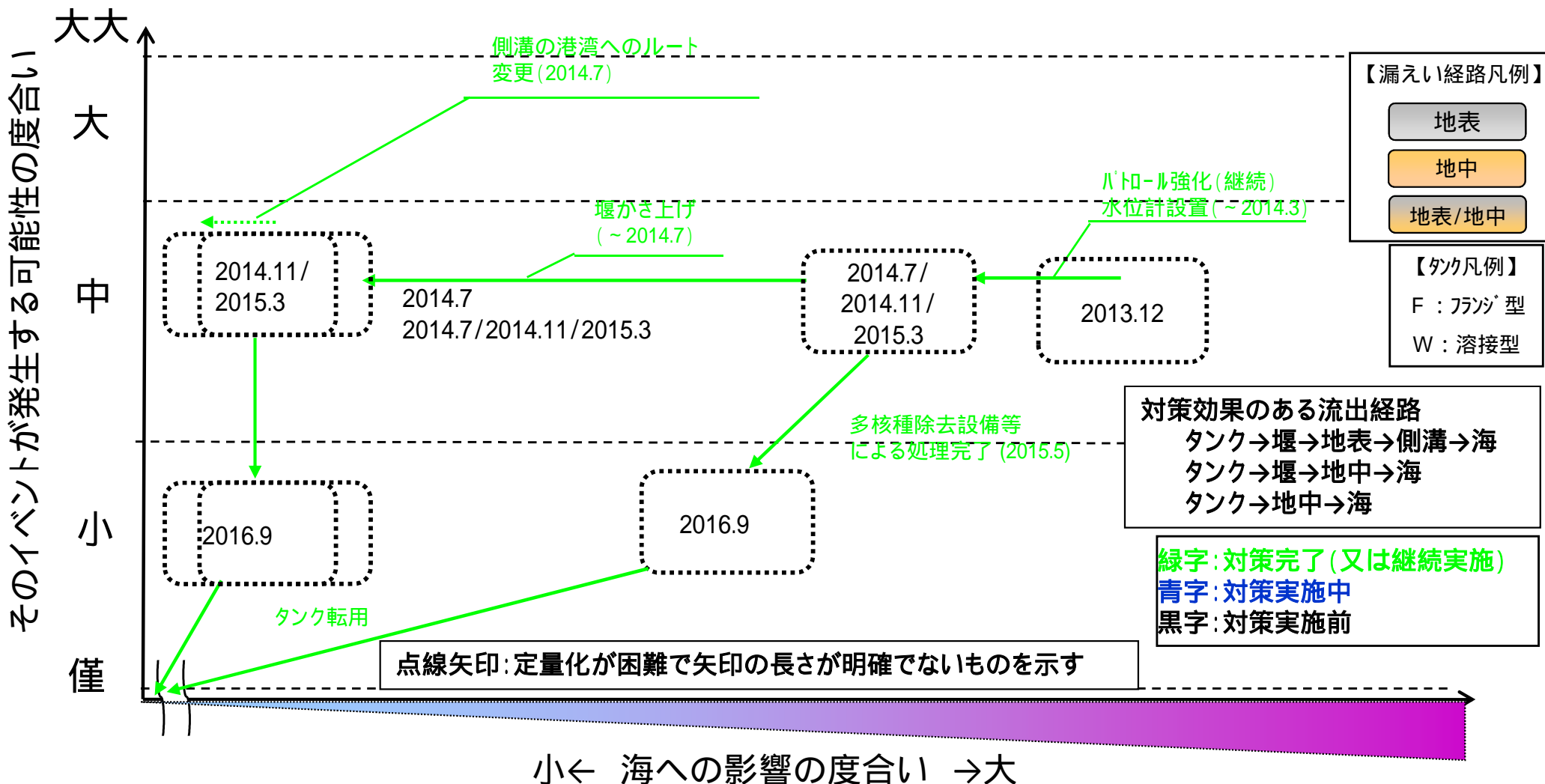
フランジタンク解体の進捗により、フランジタンク基数が減少。



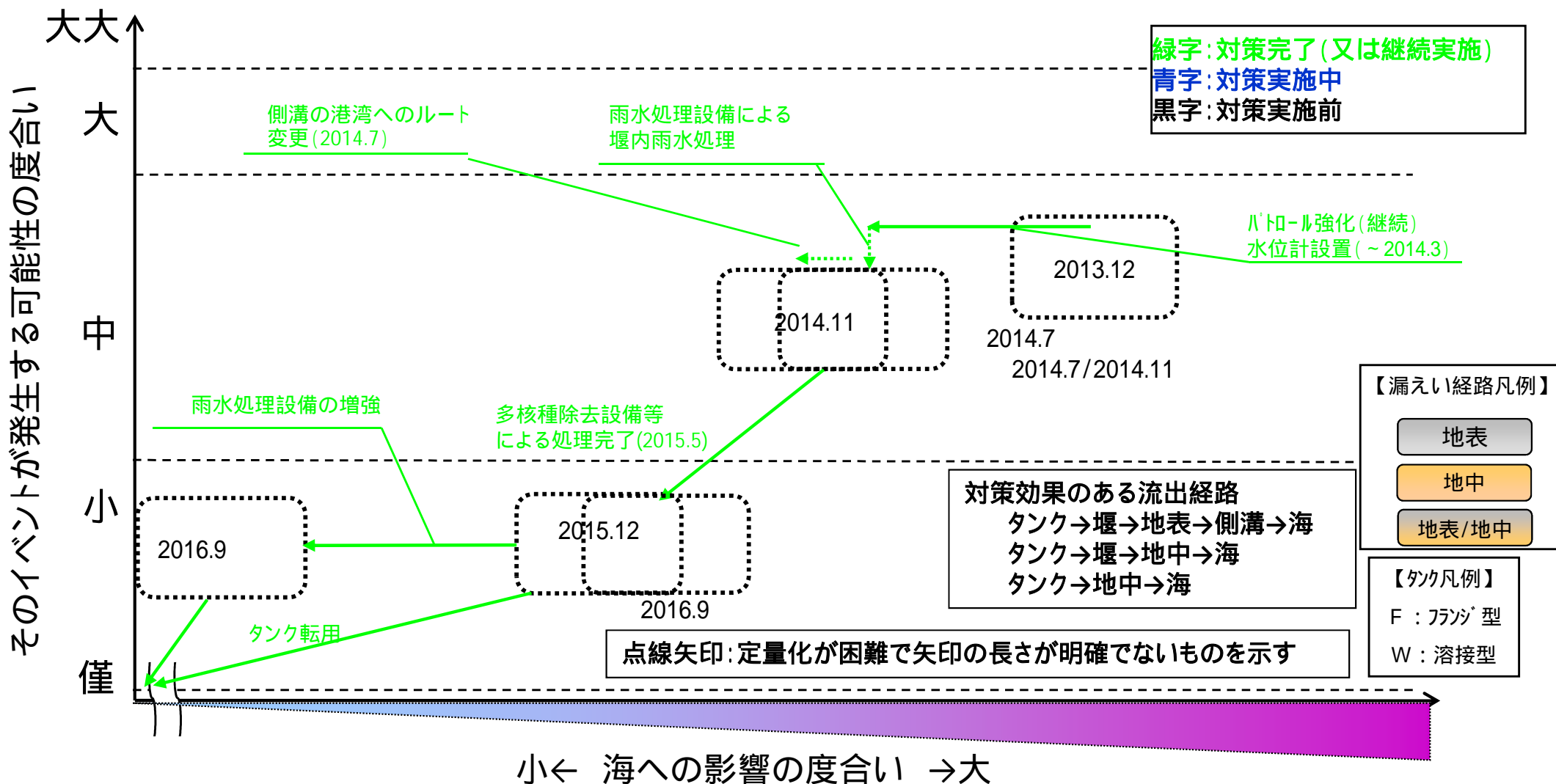
多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
濃縮塩水の溶接タンクをSr処理水用に全て転用。



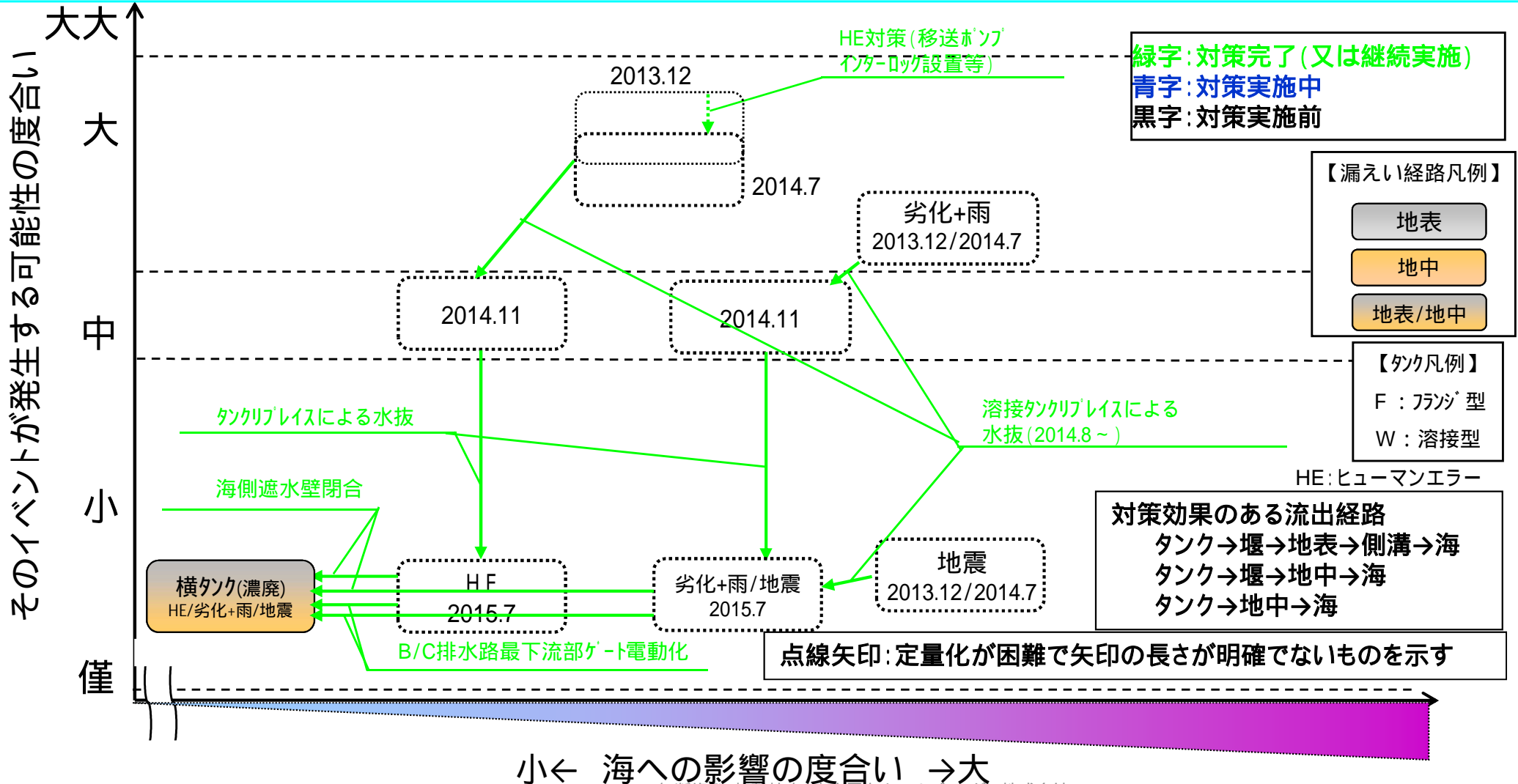
多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
濃縮塩水の溶接タンクをSr処理水用に全て転用。



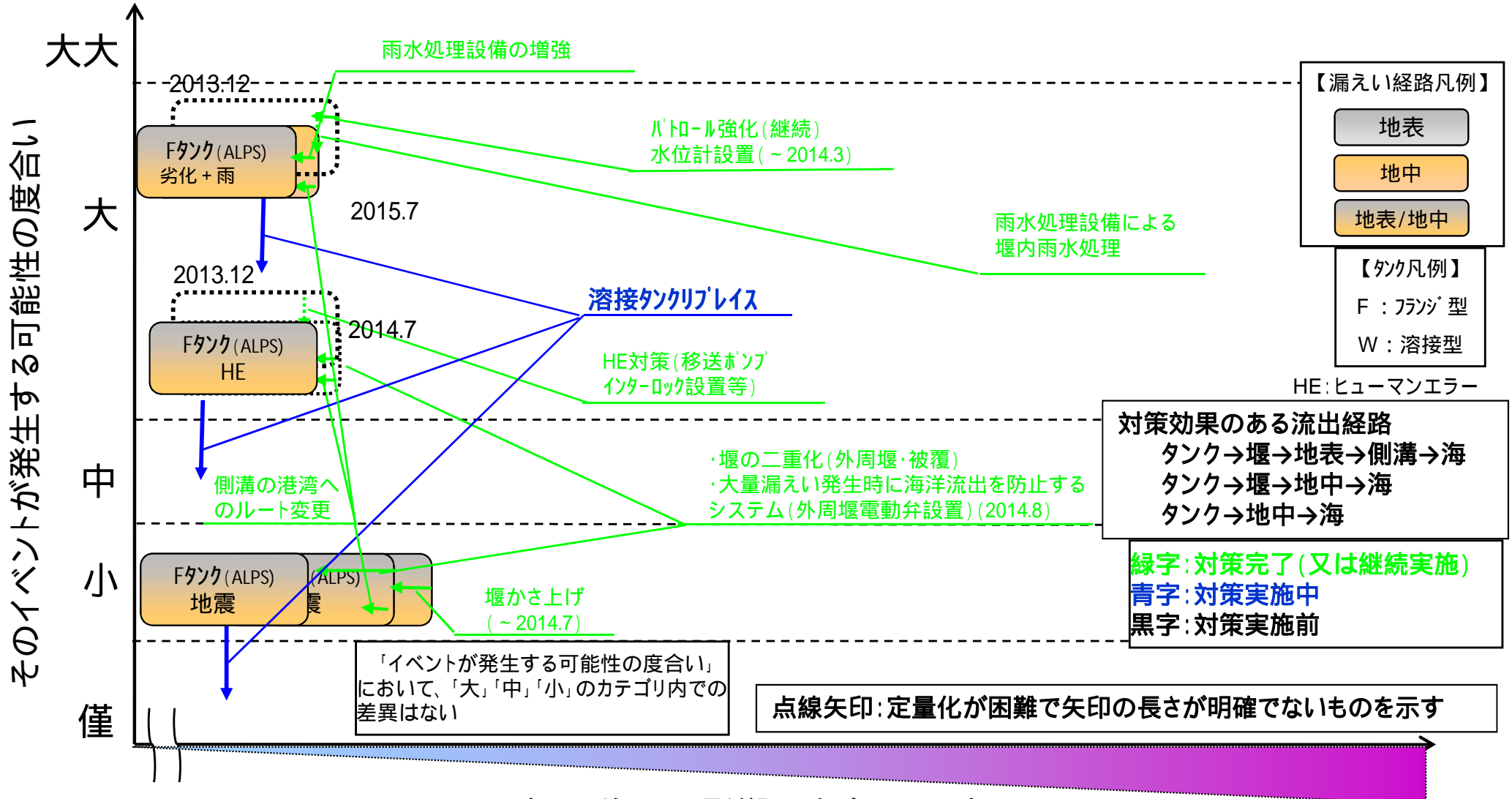
多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減。
 濃縮塩水の溶接タンクをSr処理水用に全て転用。



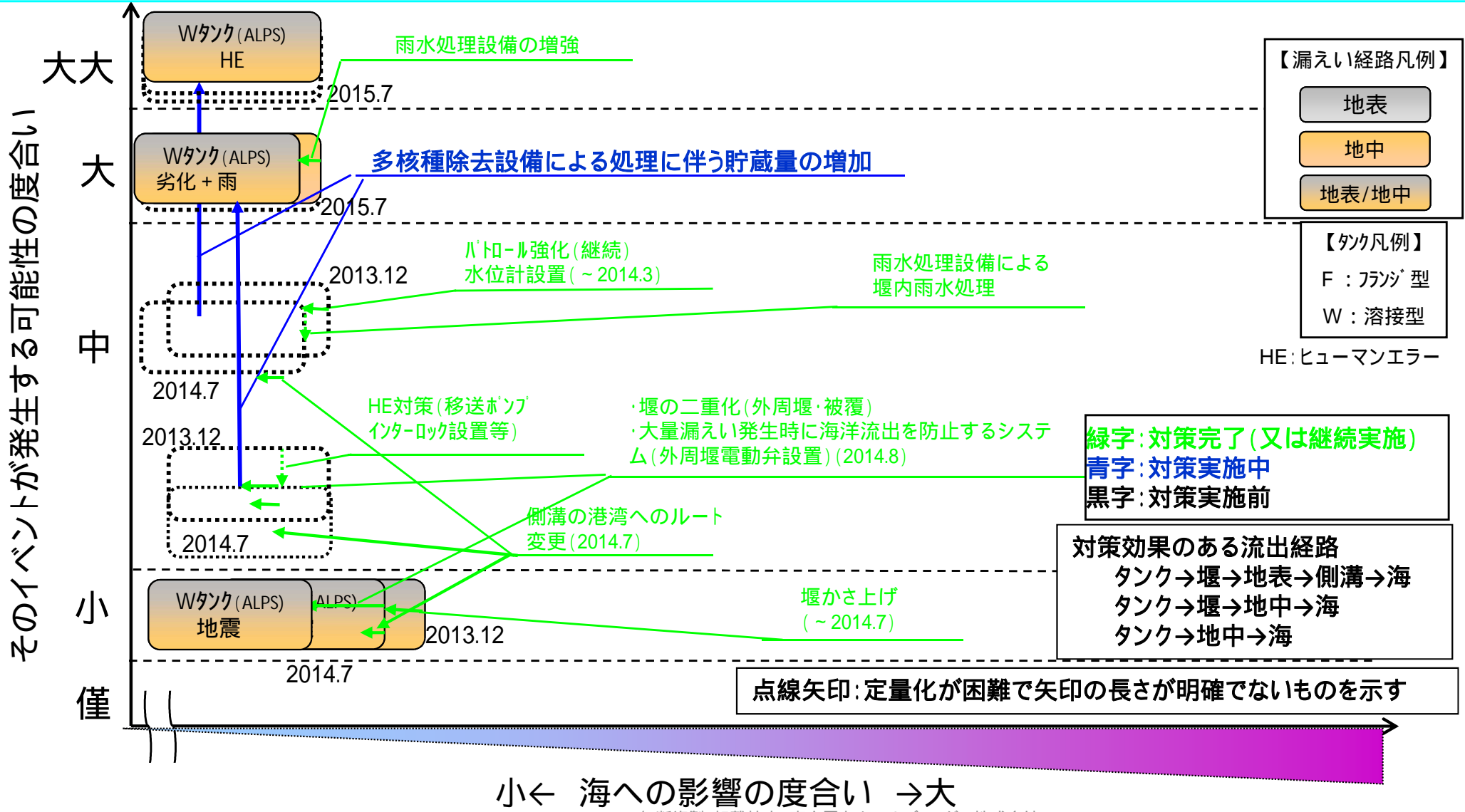
横置きタンクよりポンプでくみ上げ可能な汚染水を除去し、タンクの撤去を実施中。
海側遮水壁の閉合により、地中を経由し護岸付近の地下水から海洋への流出が抑制。
B/C排水路最下流部のゲート電動化により、地表での大量漏えい時の海洋流出が抑制
残留するスラッジ分は、水処理二次廃棄物と同等の管理とする。



雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減
タンクリプレイスにより、劣化による漏えいリスクを低減。



雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減
 ストロンチウム処理水の処理に伴い、継続的に処理水貯蔵量が増加中
 (イベント発生可能性の度合いが増大)。



雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減
 B/C排水路最下流部のゲート電動化により、地表での大量漏えい時の海洋流出が抑制
 ストロンチウム処理水については、多核種除去設備で再度処理を実施中。

